

【大会主題】 「豊かな人間性と創造性を育み 未来を拓く学校教育」
【キーワード】 自立・協働・創造(第11期 全国統一研究主題)
【サブテーマ】 豊かな心とたくましく生きる力を育む活力ある学校づくりの推進

【開催期日】 平成30年8月1日(水)・2日(木)・3日(金)
【開催地】 北海道札幌市
【会場】 〈全体会〉 札幌コンベンションセンター
〈参加分科会〉 札幌コンベンションセンター
【日程】 第1日目 YOSAKOIソーラン、GOGOS&クワザワグループ他、開会行事、シンポジウム
第2日目 分科会
第3日目 研究のまとめ、記念講演、閉会行事

【視察概要】

【シンポジウム】
(第1日目) コーディネーターである東京大学大学院教育学研究科教授勝野正章氏からは、「学校課題の多様化、複雑化に伴い『チーム学校』が「何のための、誰のための」ものかを『教職員』から『子供』を中心に再認識する必要があるのでは。」との問題提起がなされた。シンポジスト1、十勝バス株式会社社長野村文吾氏からは、職員と子供を受容し個性を認めることにより、自発的な行動や活動を起こすようになる。時間は掛かるものをあきらめず手を掛け続けてきたという経験が紹介された。シンポジスト2、リレハンメルオリンピック金メダリスト阿部雅司氏からは、失敗を恐れず様々なことにチャレンジすること、相手の立場に立ってものごとを考えること、目標や夢を口に出して言うことでチームの活性化が図られた経験が話された。シンポジスト3、文部科学省初等中等局教科調査官安部恭子からは、「活力とは、子供の笑顔が輝くこと、自らが動く、認め合う学級経営の充実」を根幹にした実践事例を交えながら紹介があった。

【分科会】
(第2日目) 第4分科会 「組織・運営に関する課題」
午前 地域の力を学校運営に生かす教頭の役割～地域と連携して推進する「長井の心」育成を目指した教育活動を通して～と題して、長井市立長井小学校日黒孝博教頭より提言があり、「社会に開かれた活力ある学校づくりをしていくために、教頭の役割はどうあるべきか」ということに関してのグループ協議、指導・助言がなされた。
午後 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した取組～「えべつ型コミュニティスクール」の推進・小中一環教育を通して～と題して、江別市立江別第二小学校庄隆章教頭より提言に対して、「社会に開かれた教育課程の実現、地域とともにある学校への転換を図るために、教頭としてどのように関わるべきか」というテーマで、また、「多様な学びを支える組織整備と教頭の役割」～校内組織及び関係機関との連携を活かした教育活動を通して～と題して、札幌市立月寒中学校原田之彦教頭より提言があり、「関連機関との連携を活かし、活力ある組織づくりをするために、教頭としてどう関わるのか」に関してグループ協議、指導・助言がなされた。

【研究のまとめ】 第2日目に行われた10分科会から報告が行われた。

【記念講演】
(第3日目) 演題:『組織の活性化を実現するナンバー2の役割』
講師:白井 一幸氏(野球評論家・企業研修講師・TVコメンテーター)
日本ハムのコーチとして改革に着手し、万年最下位だったチームを44年ぶりに日本一に、また、「2016年九回の奇跡」に至った組織改革の裏側や考え方について、エピソードや実例を交えながら、NO.1が判断しやすくなる極意が語られた。

【視察を終えて】 本大会には、全国から約2,900人の参加者があった。この規模の研究大会を開催するに当たり、8年ほどの短いサイクルで大会開催を行っているにも関わらず、輩出された人材の活用など既存の地域財産を最大限に生かすことに学ぶべき点があった。また、分科会を中心に、全国各地における課題や取組に触発されたことも多く、実り多い視察であった。